

税金と私たち

丹波市立青垣中学校 3 年

塩津 真弥

私は児童養護施設で生活している。施設に入ったのは、生まれて間もない頃だったから、ほとんどが施設での生活の記憶だ。施設での生活では、生活に必要なものがすべてそろっており、なに不自由なく生活できている。さらに、月に一度小遣いまでもらい、とても良い生活をさせてもらっている。そして、自分が生活できているのはすべて税金によって支えられているからだ。

税金について詳しく知ったのは、租税教室という学校での授業だった。租税教室では税金が何に使われているか、税金がないとどんな不便が起こるのかといった内容だった。消防士や警察官の人たちの給料は税金から出ていることを知った。

そこで、自分の生活にも税金によって支えられているものがあるのではないかと思い、調べてみることにした。すると、食費や人件費、電気代、小遣いすべてが税金から使われていることを知った。自分たちの生活は税金によって支えられているのだと知り、税金は自分たちの生活に必要不可欠なものなのだを知った。しかし、自分たちのことをあまりよく思っていない意見も多数見られた。「税金で生活しているくせに感謝をしない。」「最低限の生活を。」「かわいそうな子供たち。」と言われていた。確かに自分は税金についてよく思っていない時があった。欲しいものは消費税で高くなり買えないし、税金はなくてもよいのではないかと思っていた。しかし今は、税金にとっても感謝をしている。その感謝を何か大きな行動で表すことができないけど、少しでも伝わればいいなと思い、今作文に書いている。

そして、児童養護施設で生活している自分をかわいそうだなと思ったことはない。学校に行くときには「行ってらっしゃい」帰ってきたときには「おかえり」と言ってくれる施設の職員の人や、子供たちがいる。それから、温かいご飯に、一人部屋まである。皆さんが払ってくれている税金があるからこそ今の自分たちがいるといっても過言ではない。常日頃から感謝の気持ちを忘れず生活していきたい。